

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆上下水道管整備を明記 国土強じん化の中期計画に

・政府は国土強靱化の実施中期計画策定に向けた方針案を公表。埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けて、上下水道管の修繕・更新といった内容を明記。老朽化したインフラの修繕や更新を推進する。上下水道システムは耐震化などに努める。八潮市の事故を念頭に置いた。ハザードマップなど防災情報の効果的な発信に取り組む。

◆24年農産品輸出、カレールウ・和牛けん引 日本食が浸透

・日本の「食」の輸出が拡大。農林水産省は2024年の農林水産物・食品の輸出額が12年連続で過去最高を更新したと発表した。日本産水産物の禁輸を続ける中国向けの減少を米国や欧州、東南アジア向けなどの増額で補い、カレールウが大きく伸びるなど品目も多様化した。

◆実質賃金24年0.2%減、迫るプラス転換 食料高騰が影

・物価上昇を上回る賃上げの定着があと一步のところまできている。厚生労働省がまとめた2024年の実質賃金は年間ベースのマイナス幅が前年から縮小した。大規模事業所など従業員30人以上に限れば実質賃金は増加に転じている。中小企業への賃上げだけでなく、食料価格の上昇が一服するかも注目点となる。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆ダイキン営業最高益 4～12月、データセンター空調伸びる

・ダイキン工業が発表した2024年4～12月期の連結決算は、営業利益が前年同期比4%増の3187億円で同期間として過去最高を更新した。生成AI(人工知能)の需要増を受け、北米を中心にデータセンター向けの大型業務用空調の販売が伸びた。純利益は税負担が大きい地域での収益増に伴って4%減の1867億円だった。

◆タカラ3Q、売上高は過去最高 営業益20%増 新築・集合向け好調

・タカラスタンダードが発表した2025年3月期第3四半期(4～12月)決算は、新築・集合住宅向け製品が好調で、売上高が前年同期比2.7%増の1843億1600万円となり、第3四半期での過去最高を更新。利益面では価格設定や在庫削減などの合理化が進み、営業利益は同20.1%増の128億7600万円となった。

◆大建工業、社名を「DAIKEN」に 9月26日

・伊藤忠商事子会社の大建工業は創業80年を迎える9月26日に社名を「DAIKEN(ダイケン)」に変更すると発表。「グローバル展開を加速する姿勢を明確に打ち出す」意味合いから、アルファベット表記を採用。2025年度に海外売上高を23年度比47%増の665億円に引き上げる目標を掲げる。企業のブランドロゴは変更しない。

《 注目商品 》

■パナソニック、マンション向けバスルーム「MR」

・さまざまなインテリアにマッチする「マーブル柄」3色、「木目柄」1色、「ソリッドカラー」3色など計11色を追加。カウンターや鏡をなくし、水アカがつきにくい「スゴピカ素材」を使用した浴槽、ノイズレスに納まり上質な空間を演出する「フラットラインLED照明」を搭載。



■コロナ、エコキュート マイクロバブル発生装置を内蔵

・マイクロバブル発生装置を内蔵し、湯はり、保温、たし湯を自動で行うフルオートタイプのエコキュート。貯湯量が370Lと460Lの2機種をラインナップ。貯湯ユニットにマイクロバブル発生装置を搭載し、浴槽のお湯に「ウルトラファインバブル」含んだ泡を発生させる。



■LIXIL、高性能窓「TW」樹脂窓「EW」 高日射取得仕様を追加

・高性能窓「TW」と樹脂窓「EW」のトリプルガラスと複層ガラスに、Low-Eクリア(高日射取得仕様)を追加。樹脂とアルミの複合構造の窓として高断熱性能(熱貫流率0.98(W/(m²・K))でありながら、樹脂窓よりもスリムなフレームでガラス面積が大きい「TW」。

